

緑のカーテン取り組み情報



お名前	大月市立鳥沢小学校（大月市）		
育てた植物の種類	ゴーヤ		
設置場所	鳥沢小学校 職員室前		
カーテンの大きさ	高さ：約 4.5m, 幅：約 5.5m	取り組み年数	8年目

緑のカーテンの効果

本校職員室にはエアコンが設置されていないため、夏の不快指数はとても高く、扇風機は熱風をかき回しているだけのむなしいものです。この劣悪な環境ではクールビズでも対応しきれず仕事効率も下がってしまいますので、緑のカーテン設置を始めました。窓からはゴーヤの葉に覆われた緑が木漏れ日に輝きますので、直射日光を幾分和らげると同時に心の安らぎにもなっています。

育てる際の工夫・苦労

緑のカーテンを始めた3年間は、朝顔の種類をいくつか試しました。その後ゴーヤとのミックスなどを経て、現在は最も葉が多く効率的なゴーヤで実施しています。職員室前はコンクリートのため、プランターで育てています。そのため肥料の調整と夏には朝晩の2度の水やりが必要になります。緑のカーテンを完成させるためには、5月と6月は花が咲いても摘花し続け、できるだけ茎と葉が育つようにします。高さ2mを超えたあたりで、頭を止めて、横にたくさん伸びるように工夫しています。夏に間に合わせるためには、4月に昨年の種を温室で育苗します。そして、ゴールデンウィーク後にプランターに植えるようにし、早めの緑のカーテンの完成にこぎつけるよう工夫しています。

感想・楽しみ方など

7月中盤から、実をつけさせるようにさせますので、8月～9月上旬にかけてたくさんのゴーヤが実ります。定番のチャンプルーはもちろん、ゴーヤのツナサラダやゴーヤの浅漬け、ゴーヤフライなどお互いに情報交換しながら楽しんでいます。子どもたちは、職員室前の緑のゴーヤトンネルをくぐりながら、「伸びてきたね。」「花が咲いたよ。」「ゴーヤの赤ちゃんだ。」など、その成長を見守っていました。子どもたちにとっては、環境教育や理科の学習教材としても活用されています。最近、実が熟してきたので、間もなく種をとり、来年もこの種から育て、循環できる緑のカーテンを続けていきたいと思っています。